様式3－1

令和5年2月8日

令和4年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間・(最終) ）

天応中学校区　校番16　　学校名　呉市立天応中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	(貫) 資質・能力を育て，確かな学力の向上を図る（探究の過程を通して）	基礎・基本の徹底と豊かな対話の場の構築（学力向上）	【結果】 〇2学期期末試験で，10.9%（1年14.8%（7名）。2年9.3%（10人），3年8.7%(6人)）の生徒が30点未満であった。また，2学期期末試験で，複数教科で30点未満の生徒は17人いた。 〇各種学力調査において正答率が30%以下または得点が30点以下の生徒には偏りが見られた。 【考察】 〇各教科で基礎・基本の定着を図るための授業改善や工夫は概ね定着してきた。 〇各教職員が意識して「学び方」の指導や，「学ぶ機会」の提供のための工夫を行っているが，十分な指導の改善・充実には至っていない。	〇各種学力調査で課題が見られる生徒に対して，TTを活用し，個別支援を行い，きめ細かい指導を実現していく。個別の支援計画・指導計画がある生徒に対しては，各教科担当が支援計画・指導計画を意識して指導を行う。 〇放課後の学力補充（天中タイム）の充実を図る。 〇「家庭学習レクチャー」を行い，学力を身に付ける学び方の指導を行う。 〇放課後学習会・個別学習会の実施については，学校と家庭とが協力して生徒の成長を目指し指導にあたる。
		主体的に学ぶ土台の定着	【結果】 〇生徒アンケートにおいて，学習の課題設定に関する項目での肯定的回答の割合は88%，学習のふり返りに関する項目で肯定的回答の割合は86%であった。 〇教職員アンケートにおいて，学習の課題設定に関する項目及び学習のふり返りに関する項目において。「とてもそう思う」と回答した教職員の割合はそれぞれ10%と20%であった。（「やや思う」はそれぞれ80%と70%） 【考察】 〇生徒は授業での課題について疑問・意欲・仮説をもてているが，課題を自ら設定する力は身に付いていない現状がある。 〇教職員は「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業改善が必要である。	〇小中で振り返りの視点を精査し，小中の各教科が共通のふり返りの視点をもって生徒に学習のふり返りをさせる。 〇　2学期には小中合同での授業研究会を実施し，プロジェクト型学習の考え方に基づいた授業づくりに関する研修を行うことができた。3学期予定の小中合同研修において，今年度の取組を振り返るとともに，カリキュラムの見直しや改善を行い，来年度につなげる。
★★	自立し，自律につながる生活基盤の確立	状況に応じたセルフコントロール能力の発揮	【結果】 〇自ら設定した家庭学習目標時間を達成した生徒について，8割以上達成した生徒の割合が，91．5%であった。 〇メディアコントロール週間で目標時間を達成した生徒の割合は，69.4%であった。 【考察】 〇1学期に生徒から寄せられたメディアをコントロールするための具体的な実践例を全生徒にロイロノートや昼の放送で生徒に呼びかけを行った。また，試験前のメディアとの付き合い方について，保護者も踏まえて道徳授業を行った。結果，セルフコントロールする意識が高まった。	〇メディアコントロール週間開始のタイミングで道徳の授業で関連性のある内容を扱ったことが奏功したことから，来年度も継続して実施する。 〇学習時間の増加が試験の得点力アップに直結しない生徒への支援・対策を考える。 〇低得点とメディアコントロールとの関係がデータからも見えたことから，メディアコントロールへの記入を日々チェックし，生徒への声かけと保護者連携を密に行う。 〇学級通信を通じて，生徒の頑張りの共有を継続して取り組む。 〇各教科の課題の進捗状況がひと目で分かるワークシートが有効であったため，改善を加えながら継続して取り組む。
★	誰もが安全で安心して学べる教育環境の確保	心豊かで，社会性を身に付けた児童生徒の育成	【結果】 〇「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は，全体で78%と前回と比較して微減であった。 〇縦割り班の活動では上級生として，下級生や小学生をまとめたり，指示したりする様子が見られた。 【考察】 〇ボランティアには支援を要する生徒が多く取り組んでいるように感じる。そのような生徒は「誰かのためにがんばることがとても楽しい」と回答し，他者への貢献を慶びを感じている様子である。	〇ボランティア参加生徒がその意義を感じると，活動内容も活発化し，生徒も指導者も手応えを感じることができる。自己肯定感を醸成する場面を意図的に設定し，参加者が意義を体感できる取組を継続していく。 〇活動の様子を掲示物や通信などで紹介し，他者と共有する。 〇ボランティア活動の際の声かけはより一層生徒が次もやりたいと思える声かけをしていきたい。
		教育の質の向上と生活のバランスがとれた働き方の確立	【結果】 〇教職員アンケートの「生徒と向き合う時間が確保されている」について，肯定的な回答が7割で前回から微増した。 〇時間外在校等時間が月45時間を超えた人数は，2学期は9月4名，10月：9名，11月：3名，12月：5名，1月3名であった。 【考察】 〇時間外在校等時間が月45時間を超えた人数は，昨年度延べ31名，今年度延べ59名の状況にあるが，勤務終了（退校）時間は，学期途中から改善の傾向にある。 〇開校準備については，学期中の負担軽減を考慮して夏季休暇中に各部会を開催したが，十分に検討しきれないで未消化の状態のものが多い。市教委から回答待ちの議案を含めて3学期に整理する必要がある。	〇分掌内の仕事分担の一局集中化の解消を主事と相談しながら調整し，分業化と組織の動きの強化を図る。 〇多忙の主たる要因である義務教育学校準備については，学校を創ることに参与することに互いに意義を感じられるよう，雰囲気の醸成や指導助言を行う。 〇全教職員が「働き方を変える，意識を変える，プライベートの充実を図ることで，児童生徒への好影響が見込まれる」という本来の意義に立ち返り，忙しさの中にも充実感を得られるよう相互の声掛けや支援の充実を図る。